

令和5年12月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

多くの業種においてコロナ禍前の売上に戻ってきているが、原材料費・仕入価格や人件費の上昇分を販売価格に転嫁しきれず、収益面の改善がみられないことから、12月景況DI値は横這いに止まっている。

また、需要・受注は増加しているが人材不足により対応できないことや、必要なスキルを持つ人材の確保が困難として事業経営そのものに危機感を抱くとの報告も多く、人材確保が経営上大きな問題となっている。

価格転嫁による収益改善や人材確保の困難性に加えて、コロナ禍を経てのデジタル化や消費構造の変化への対応もあり、先行きへの不安感が拭えない。


山口県の主要指標 DI 値（令和5年12月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：7.5% 悪化：32.5% DI 値：▲25.0% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：26.3% 減少：28.8% DI 値：▲2.5% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：17.5% 悪化：36.3% DI 値：▲18.8% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和5年12月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
---	---	--	--	--

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲37.5	▲50.0	▲66.7	0.0	▲50.0	▲25.0	0.0	▲34.3
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製造業
▲60.0	▲37.5	▲20.0	9.1	▲36.4	28.6	▲100.0	▲18.8
							

全 体
▲25.0


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	12月の売上は前年並みである。北海道産の小豆が不作で例年のように入手できない上に、価格が高騰している。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	売上は給食の実施日が曜日の関係で少ないため減少したが、政府の電気・ガス価格激変緩和対策補助金や小麦粉の価格引き下げにより、収益は変わらないと見込まれる。	パン・菓子製造業 下関市
	原料魚の水揚げ減少が著しく、価格高騰が続いている。人手不足が深刻であり、後継者の育成が急がれる。	水産食料品製造業 長門市
	コロナが5類になって催事等が行われるようになり、関連した商品を取り扱っている企業はそこそこ売上があった模様。円安で海外からの仕入れの値上がりが続いており、原材料は前年の倍近い価格になっていて容易に価格転嫁できない企業もあるため利益率はよくない。業況は前年とさほど変わっていないが、前年の動きを参考に出来たおかげで、仕事等の効率は良く、年末に向けて慌てることなく準備ができ、遅くまでの残業もしなくて済んだ模様。その分、人件費等の経費が抑えられたのではないだろうか。	水産食料品製造業 下関市
	12月に入り寒いことが多かったためか、出だしは伸び悩んだが、天候が回復すると同時に売上も伸びた。年末から『正月用餅』の注文が順調で、新しい年への期待の大きさが伺える。ここに来て、相次いで再度の値上げ通知が来ている。原材料のみならず、梱包材等の消耗品も対象となっている。できるだけ仕入価格を落とすよう取り組んではいるが、今後どの程度利益に影響するのか、注視していきたい。場合によっては値上げを検討せざるを得ないかもしれない。	食料品製造業
	コロナによる影響もほぼなくなり売上については例年並みとなった。地球温暖化の影響により各地で大規模災害が続くような状況となり、自然災害に対する備えの必要性が高まっている。また、肥料、燃料など各種コストの大幅な増加により、製造原価が上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種生産資材の値上げが続いているなかで、取引先によっては、値上げを頑なに拒否するところもあり、農業者には原価割れの状況が続いている。地球温暖化対策については、目に見えて進めているような政策がほとんどなく、水素ステーションの構築、燃料電池の積極的な導入など、水素循環型社会の実現に向けた政策の加速化が強く求められている。日本の発電量に占める化石燃料の利用率約70%という数値も国際社会的にみても異常に高いので、早急に自然エネルギーの利用と原子力発電の利用を70%にするなどの改善が必要である。ウクライナ情勢、イスラエル・パレスチナ情勢等で、世界情勢が混沌として、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。国際的な原油価格が上昇し、それに伴って、肥	精穀・製粉業

	料価格が前年比 150%アップという驚異的な結果となっている。	
繊維工業	受注、収益共に少し良くなっている。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	組合員の平均売上額は、コロナ禍の令和4年12月と比べ10%の減少。(コロナによる影響が出始めた時期は令和2年4月、令和5年3月頃には概ね収束)。総体的な木材需要の減少傾向を感じる。得意先からの販売価格の値下げ要請が強い。製材関連機械のメンテナンス業者の高齢化により、今後の機械トラブルへの対応に危機感がある。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	従業員が不足し、印刷の工程が滞っている。熟練が必要な印刷技術においては新人を教育していくことが難しく、職人の高齢化に伴い、今後の印刷業界のあり方を考えていく必要に迫られている。	印刷業 山口市
	年末を迎え人流が活発になり、印刷業界にとっても最も多忙となる時期であるが、例年に比べると動きが鈍いと感じる。コロナショックを乗り越え、ほぼ通常のペースに戻ったが、コロナによる社会的変化は否定できない。特にデジタル技術の普及によるペーパーレス化の急激な進展や、お家時間の増加による生活形態の変化、リモートワークの常態化は大きな副産物といえる。こうした変化は印刷業界にも大きなダメージを与えたが、包装関連の新しい需要も生まれ、従来の価値観を刷新し新たなビジネスチャンスを描く感性和行動力が試される時代となった。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	運送に関して2024年問題対応の話を目にする機会が多くなった。販売製品の運送費だけでなく原材料等全てにおける運送費UPも容易に予測でき、数社からの値上げ打診もきている。10月に販売価格を値上げしたばかりで、再値上げには情勢が厳しく、今後についての不安は拭えない状況である。	コンクリート製品製造業 柳井市
	前年比38%の出荷減少。原材料、動力費の値上げにより、1月より10%~15%の値上げの案内を通知した。支払手数料等の費用負担をお客様に12月より依頼している。	コンクリート製品製造業 防府市
	出荷量は、前月比110%、前年同月比102%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	生コンクリート製造業
	一時的と思われるが、最近では仕事量が増加している。新規の依頼については、依然として減少傾向にある。	石工品製造業
	12月の売上は、小売り・卸ともに前年と変わらない状況。萩のうつわ「式萩祭」(11/30~12/4日萩明倫学舎にて開催)では、予想を上回る多くのお客様に会場いただき、売上も予算の240%に上った。	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	例年12月から2月まで約3ヶ月が閑散期となる。仕事量が多くはないが、例年通りの状況である。	一般機械器具製造業 下松市

	<p>売上高はやや増加で概ね想定を受注量、収益状況となっている。前年は比較的大型の受注があったが、今年度は現時点で受注予定がなく、業況については予断を許さない状況である。5年程前より顧客から支給される国産鋳鋼素材の納期が非常に不安定となり、品質についても不安がある。高級な国産鋳鋼の製造力が落ちてきているような気がして不安である。韓国産鋳鋼は安価でスムーズに支給されている。依然として人員確保での継続的な投資が必要であり、採用コストが収益を圧迫している。人員不足は外国人雇用を増やして対応している。国内景気はあまり良くないところが多く、海外受注分を優先し、国内向けを後回しにしている。電気料金の大幅値上げでコストアップとなったため、納品価格の値上げをお願いしている。</p>	<p>一般機械器具製造業 防府市</p>
	<p>ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの戦争に伴う中東情勢の不安定化等による世界情勢の不安定化は先が見えない状況である。中国の景気悪化に伴い、大手機械部品メーカーの発注は年内回復の情報もあるが、若干の遅れが想定される。他の組合員については当面事業量を確保しており順調であるが、人材確保に苦慮している。サービス業、特に介護事業において人材の確保が困難な状況である。外国人人材確保の面では、他国に比して低賃金、円安の影響は大きく、台湾、韓国との人材確保競争は厳しいものがある。国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく、高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。国籍ではベトナムからインドネシアへのシフト、更にはミャンマーへと多国籍化している。</p>	<p>一般機械器具製造業 宇部市</p>
	<p>大きな変化はなく、現状維持の状態が続いている。</p>	
	<p>受注が少ない状況である。</p>	<p>一般機械器具製造業 下関市</p>
<p>輸送機器</p>	<p>鉄道車両関係は海外（台湾・エジプト・メキシコ等）からの受注があり順調に推移しているが、受注量は2024年度後半以降から減少となる見通し。2026年度から回復の兆しは見えるものの確定までは至っていない。原材料費や電気料等水道光熱費の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予測よりも大幅に受注量が減少し低位で推移している。日立ハイテクの新工場建設（2025年稼働予定）における受注増加に期待するが、引き続き今後の動向を注視したい。</p>	<p>鉄道車両・同部品製造業</p>
<p>卸売業</p>	<p>倉庫売上は順調である。主力の海苔の状況が悪く入庫が激減しているが、他の海産物が好調であり、補っている状況である。2月以降の海苔の回復が見込めたいが、天候に左右されるため見守っていく。</p>	<p>乾物卸売業</p>

	<p>年末のフグ業界は料理店からの注文が多かったようだが、一部を除き「大忙し」という状況ではなかった。カニやブリ等、他の年末食材が安価であったことが理由のようである。宅配通販では、暖かかったため鍋セットが不調で約 2 割程度減少、代わりに刺し身セットが好調であった。実際に人と会うことが出来るようになり贈答品は減少した。おせちも例年になく、後半に割引も多くなり苦戦中との報道がある等、年末の経済環境はとても変化している。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>繊維関係の卸業では、大変な状況の事業者がある模様。</p>	各種商品卸売業 防府市
	<p>コロナ禍以前の状況に戻り、売上が増加に転じている。</p>	各種商品卸売業 山口市
小売業	<p>コロナが 5 類移行後の初めての年末で、各ショッピングセンターや個店でも大きな売出しを行い集客及び売上は伸びている模様。化粧品業界は1月～3月は売上が伸びない期間であるが、2 月頃に新発売となる商品の予約活動を行うことがこの時期の集客・売上に関わってくる。国内の化粧品市場規模はコロナ前の 2019 年に比べると 9 割まで戻る見込みの模様で、スキンケアの単価ダウン、メイク需要回復の遅れなどが、回復遅延の要因となっている。消費者の化粧品に対するニーズはコロナ禍によって大きく変わったと言われている。</p>	化粧品小売業
	<p>年末に向けて、商店街恒例の「歳末えびす大感謝祭」を当商店街が中心となり開催した。イベントに関する資金繰りがだんだんと難しくなっており、補助金が望まれる。</p>	各種商品小売業 周南市
	<p>12 月の売上状況は、前年同月比約 2%減少。第 4 週目までは、全国旅行支援終了による観光需要の低迷及び物価の上昇による節約志向が見られ、売上が前年比約 7%落ち込んだ。年末商戦の時期（第 5 週目）は、正月準備の需要により消費者の購買意欲が高まり前年比約 5%増加した。販売時に備えた対策が求められる中、必要なスキルや経験を持つ人材が不足し、生産性の低下や販売機会ロスが見られた。</p>	各種商品小売業 萩市
	<p>12 月の供給高は前年比 96.9% 来店者数 91.9%。コロナが明けて初めてのお正月、年末年始の売上増加が期待できる。インフルエンザが猛威をふるっている。</p>	各種商品小売業 下関市
商店街	<p>12 月の小売り需要が始まった。飲食業と物販業では消費動向が異なるが、相対的に売上は高い。一方でコロナ明けの需要形態、消費構造の変化が著しく表面化している。飲食業は、忘年会は大型にはならないものの、少人数の開催が多くあり満席も多いが、二次会、三次会へ流れるケースは極めて少ない。物販業に関しては、インターネット通販（EC）の台頭が勢いを見せる。配送にかかるサービス業も繁忙となる。市場で目立つのは物価高騰による品物の値上げ、一方で止まらないデフレ化が進み、結果的に粗利が大幅に低下。インボイス導入や最低賃金の励行などによるコスト増加が激しく、収益が上がらない状況が各業界に見受けられる。美容業界などのサービス業は、コロナの収束により好調である。</p>	岩国市

	1月末で2店舗の閉店がある。元気のいい店舗とそうでない店舗の格差がどんどん広がっているように感じる。	山口市
	年末の人出は程々であるが、財布の紐は固いように思う。	宇部市
	食品以外は依然として節約傾向で、消費が伸び悩んでいる。イベントで集客を図るが、各店での売上にはなかなか結びつかない。	萩市
	10月2日に販売されたプレミアム商品券が年末に向けて利用されており、来年も是非実施してほしいとの要望がお客様から上がっている。しかし加盟店では仕入の価格上昇、雇用最低賃金上昇により販売価格を上げるわけにもいかず、その他経費を抑えるために、商店街会費、ポイント負担をなくして欲しいとの声も上がっている。	下関市
サービス業	コロナ感染症が5類に移行し初めての年末を迎えたが、街は活気を取り戻し、イベントの多い月となっている。美容室の利用も前年より10%程度伸びると予想。	美容業
	コロナ感染症の5類移行後、売上も少しずつ増加してきたが、物価高騰で、価格転嫁しにくい面もあり厳しい状況である。	理容業
	中国地方における令和5年11月の新車新規登録台数は、対前年同月比11.6%増となり、11ヶ月連続プラスで推移。全国においても14.9%増と11ヶ月連続でプラスの状況と新車販売は回復傾向が顕著な状況の中、大手自動車メーカーの認証不正発覚に伴う出荷停止措置から、販売会社は顧客対応に追われ大きく混乱の状況。大手中古自動車販売の不正請求問題が収束に至っていない中であって、業界の信頼回復が重要な状況は変わらない。OBD検査にかかるスキャンツール導入に国は補助金の第2次募集を開始したが、事業者の関心も高く導入促が期待される状況にあり、引き続き今後の動向を注視したい。	自動車整備業
	値上げで売上高は少し上がったが、入会動向は良くない。ただし地域差がある。	スポーツ・健康教授業
	12月もコロナ前よりも売上が戻った事業所が多い模様。ただ、原油高や資材の高騰により、従来通りのクリーニングのみでは収益の確保が難しくなってきた。	普通洗濯業
	12月は団体予約が大変たくさんあり、会社の忘年会や各種団体の集まりも大変多くあった。	飲食業
	前年同月比で売上は89.0%、宿泊人員は81.1%と前年割れとなった。昨年の10/10から全国旅行支援が再開されていたが、今年は無かったことと、従業員不足のため部屋の稼働率を落とさざるを得ないこと、建替え予定の1施設が2024年2月に閉館するため、宿泊受付を一部セーブしている事が要因と考察される。コロナ前の2019年と比べると、売上90.3%、宿泊人員105.3%となるが、宿泊人員の伸びは1施設のリニューアルオープンにより部屋数が増加したためと考えられる。	旅館業 山口市

	売上高は前年比 14%の減少。重油、電気等は引き続き高値圏を継続。未払金の増加により資金繰りが悪化している。老朽化により電気・機械装置の交換等が必要となり、改修費用が嵩む状況である。	旅館業 長門市
	行政の支援がなくても宿泊客は増加している。観光客は単価の高いホテルに宿泊する傾向があり、ビジネスホテルでは平日にビジネス客の宿泊があるが、土日は空室が目立つ状況である。	旅館業 下関市
建設業	中電への工事申請 169 件(当支部 161 件)、前年同月 127 件(同 122 件)。太陽光発電への申請 31 件(前年 22 件)、オール電化申請 102 件 (前年 22 件)。LED 街路灯への切り替え・新設申請 20 件(前年 32 件)であった。	電気工事業
	一時的な回復感があったものの、状況は低位での横這いである。技能者の減少、業界規模の縮小が更に進みつつある。平成 17 年から 3 年間に亘り、雇用・能力開発機構の“中小企業人材確保推進事業”助成金で活動したが、その効果を感じることは出来ない。	左官工事業
	12 月は例年、年末の道路渋滞等を避けるため工事許可期間が短く、天候も良かったので、受注済み工事で忙しい様子であった。民間工事は少数。	管工事業
	各社忙しい模様で年明け後も続く見込みである。令和 6 年春以降の見積りも増えてきており、今後も仕事量を確保できそうだが、仕入価格の上昇や人手不足を懸念している。	鉄骨・鉄筋工事業
	土木建築の状況は、例年並みの予算が有りながら、発注が遅れているように思われる。インボイス適正な対応に、事務方の時間が費やされている。更に令和 6 年度からの土日休業の働き方改革が実施されることで、その対応に苦慮している状況である。	一般土木工事業 柳井市
	12 月の受注高は、対前年同月比 370.1%。今年度の累計では、対前年比 101.1%。	一般土木工事業 萩市
	長門地区の第 3 四半期末での公共工事の発注高については、例年より 2 割弱増加であり、収益状況は改善がみられる。燃料費については、政府の燃料油価格激変緩和対策により下がったが、年度当初よりは大幅に高い価格となっている。建設資材については、まだ上昇傾向にあると思われる。	一般土木工事業 長門市
運輸業	輸送関係は 12 月前半より輸送量増加で対前年比 1.86%とやや増加したが、依然としてドライバー不足が最大の問題である。若年層のトラック嫌いでの人員確保が難しい中、高齢ドライバーが活躍しているが、輸送には神経を使う状況。燃料は前月と同額。	一般貨物自動車運送業 下松市
	荷物運送量は年末にかけて増加している。自社車両では足りず庸車を手配せざるを得ない場合もあるが、庸車も不足している。原因は近年の乗務員不足と時期的な荷物量増加にある。倉庫保管案件はほぼ横ばいである。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+23.3%（令和5年11月1日～令和5年12月20日分）だった。11月1日～30日分は+22.2%、12月1日～20日分は+24.7%。前々年度比では、それぞれ+27.7%、+27.0%、+28.5%になった。かなり回復しているように見えるが、前年、前々年がコロナ禍で大幅に減少したためであり、令和元年度11月分比（コロナ禍以前）では、まだ▲24.4%。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。11月分については、周南+26.7%、下松+15.6%、光+42.3%、防府市地区が▲3.5%で、組合員の全域では+21.8%、地区外（員外）+25.6%、合計+22.2%(+3,171千円)だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）や為替によって変動する。燃料単価は前月より+1%上昇。前年12月比+2%となった。6月から上昇し続けており、今後の動向が心配されている。マスコミでも話題になったが、タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって、慢性的危機的に不足している。乗務員さえ確保できたら、もっと売り上げが増やせるのだが、という意見をよく聞く。各タクシー会社とも、利用客の拡販よりも、乗務員確保に苦心している。運賃も改定されており、もっと輸送収入が増加するはずである。</p>	<p>一般乗用旅客 自動車運送業</p>
	<p>12月は例年とほぼ同水準で推移した。</p>	<p>港湾運送業</p>
<p>その他</p>	<p>原油や物価高騰の影響で、光熱費や食費等も値上がりしており非常に厳しい状態が続いている。4月に介護報酬が改定されるが、若干ではあるが人件費や物価高騰に対応できるようプラス改定となる模様である。ただし、賃金に反映するにはもうしばらくかかりそうである。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症対策は依然として流行しており、引き続き感染対策が必要である。</p>	<p>介護事業</p>